

ポスター | 1-05 画像診断

## ポスター

### 画像 MRI①

座長:唐澤 賢祐 (日本大学医学部附属板橋病院、唐澤医院)

Fri. Jul 17, 2015 1:50 PM - 2:20 PM ポスター会場 (1F オリオン A+B)

II-P-032~II-P-036

所属正式名称:唐澤賢祐(日本大学医学部附属板橋病院小児科、唐澤医院)

## [II-P-033]CMR (cardiac MRI) による Duchenne型筋ジストロフィーの心機能評価

○木村 正人, 川合 英一郎, 大軒 健彦, 高橋 怜, 吳 繁夫 (東北大学医学部 小児科)

Keywords:デュシェンヌ型筋ジストロフィー, CMR, 心機能評価

【背景】デュシェンヌ型筋ジストロフィー (Duchenne muscular dystrophy, DMD) は筋ジストロフィーの大部分を占め、進行性に筋萎縮と筋力低下をきたす X染色体劣勢遺伝形式をとる疾患である。近年は主な死亡原因である慢性呼吸不全と心筋症に対する集学的治療により生命予後の改善が得られている。昨年本邦で発表された診療ガイドラインによると、DMDの心機能評価には従来からの心エコーに加えて CMR(cardiac MRI)による心機能評価も有用であると記述された。【対象】2012年12月から2015年2月の期間に当院で CMRを施行した DMD6例について CMRによる左室機能、遅延造影(LGE) について検討し、胸部レントゲンや心エコーなどと比較した。【結果】年齢:11歳~16歳(平均13歳、中央値13歳)。EF(CMR):26.7%~58.0%(平均43.1%、中央値43.1%)、LGE陽性は6例中4例にみとめ、左室側壁中心に病変が存在していた。MRI上心機能低下を認めた場合には LGEも陽性であったが、BNPは1例を除き正常または軽度上昇であり心エコーでの EFは過大評価傾向があった。一方、胸部レントゲン写真上の心拡大を認めない場合でも CMR上心機能が低下し LGE陽性の症例もあった。【考察】DMDにおいては、ガイドライン上10歳以上の症例に関して毎年の心機能評価が推奨されている。当科通院中である10歳以上の症例のほとんどで CMR上心機能低下を認めた。11歳時にすでに LGE陽性症例もあることから、より早期に CMRを施行し心筋変性の有無を検索すべきと考えられた。また、特にステロイド投与のためにエコーウインドウが不十分な症例においても CMRは心機能評価に有用であると考えられた。